

「万葉集と防人の任地」

・奈良時代に大陸勢力の進攻を防禦するために筑紫（今の九州）の沿岸や
壱岐・対馬の海岸の崎々・峰々の守護の任に当たるために「防人」即ち、
兵士が配置されたことが「日本書紀」天智三（664）年五月十七日の条
に記されている。

また、万葉集巻二十には天平勝宝七（755）年二月に交代要員として筑
紫に派遣された東国諸国の防人（崎守、岬守と同意）やその父やその妻た
ちの歌84首が載せられている。前回の本シリーズ第三十九回「防人の歌
」難波から筑紫へ」には難波津から出港の際に防人たちが詠った歌を中心
に載せている。

・水島義治著「万葉集防人歌全注釈」には防人が難波津に集結し、出港し
た防人達が筑紫に到着後、駐屯し、大陸勢力進攻の守備に当った地域は、
「日本書紀」に記載されている地である「今の長崎県の壱岐・対馬及び北
部九州沿岸のあちこちのいずれかの地域であると考えられるが、実際にど
の地点に配備され、駐屯していたかを示す資料はなく、これを詳らかに
することはできない」との趣旨を記す。このことは古代、防人の配置は軍
事機密であったために資料はなかったからであろうとの説がある。

・ところが万葉集には防人が防備に配置されていた地として示す文献とし
て唯一の例であるとの説がある次の万葉歌がある。

つくしのみちのくちのくに しか 筑前 国の志賀の白水郎あまの歌十首」の第七首目の歌である。

かも

沖つ鳥 鴨とふ舟の 還り来ば

かへ こ

やら よきもり

也良の崎守 早く告げこそ

卷十六—3866

(解説) 鴨という名の舟が帰ってきたら、也良の崎守(防人ともいう)よ、早く知らせてくれよ。 — 「鴨」という名の舟に志賀島の白水郎(漁師)・荒雄あらをが乗っているからと対岸の能古島の也良のこのしまの防人に妻たちが悲痛な思いで呼びかけている。 —

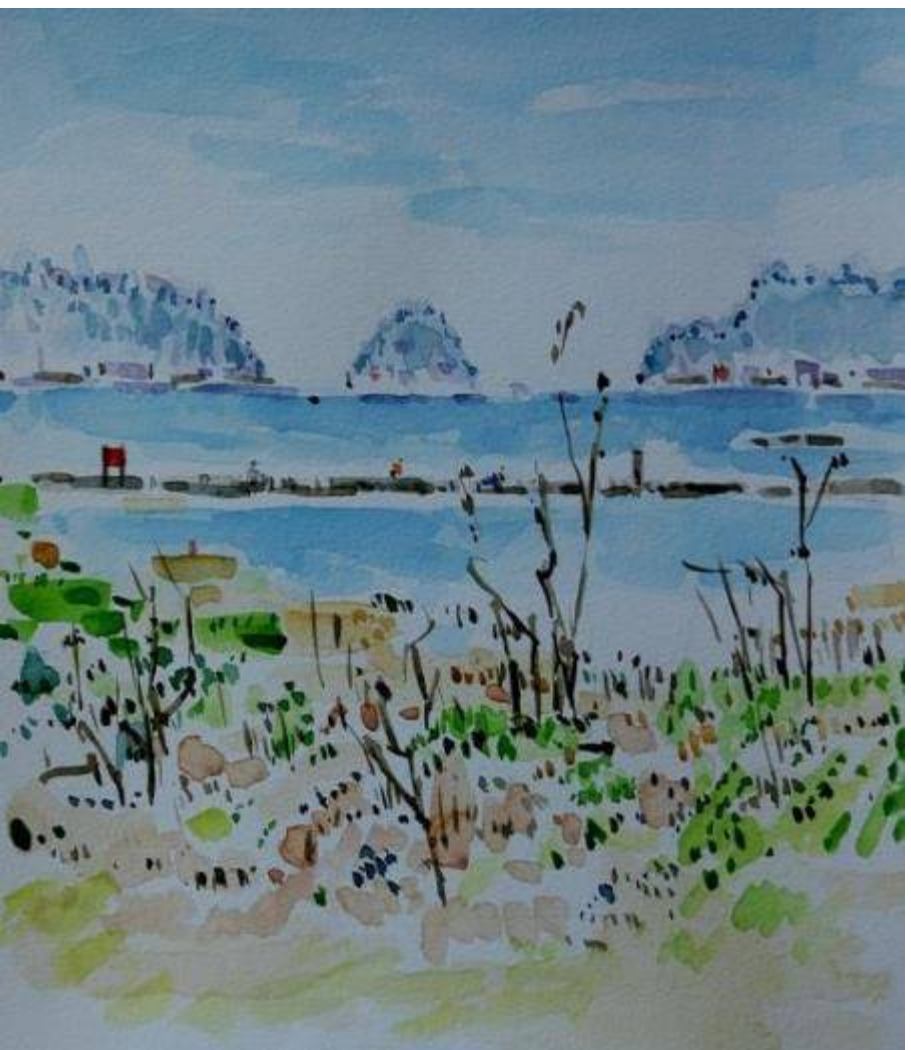
・奈良時代の初め。志賀島の漁師「荒尾」しかのしまが、大宰府から対馬(現・長崎県対馬)に食糧を送るよう命じられた友人からの、たつての願いに応えて対馬に食糧を運ぶために船をだすが暴風にあつて船が沈没し、ついに帰らぬ人となった。

・この歌は荒雄の妻子が、「荒尾」の生還を念じて詠んだという連作の一首である。また一説では筑前の国守・山上憶良が荒尾の妻の身になって作った歌であるとも伝えられている。

・対馬に食糧を送ることについては古代の法令によって対馬に配置された防人などの食糧にあてるため毎年、筑紫の六国(筑前・筑後、豊前・豊後、肥前・肥後)が交替で、その任にあたることになっていた。

・この万葉集に詠われている【也良】については博多湾湾口に浮かぶ能古島（福岡市西区能古）の最北端の岬をいい。また、「也良の崎守」はこの也良に配置された外洋防備の兵士（防人）を指すとの説がある。

（写生地）福岡市のほぼ中央に位置し、古くは博多湾に突き出た岬で「荒津山」と呼ばれ、万葉集に「荒津の崎」と詠まれている今の西公園（福岡市中央区）の北の突端の麓・博多湾に面する「福津浜」から左に「能古島」（福岡市西区）、「その対岸、右にこの万葉集で詠われた「志賀の白水郎・荒尾」の故郷である「志賀島（福岡市東区）」、また、両島の間には糸島半島の沖合にある「玄界島（福岡市西区）」を配した三つの島々が浮かぶ博多湾湾口風景を描く。（池田杏花）



【志賀島】

・この万葉集で詠われている「志賀の白水郎・荒尾」の故郷といわれる「志賀島（福岡市東区）」は博多湾の北正面に位置し、砂州・海の中道により陸繋島である。海の中道の西の先端は満潮時に水没するので志賀島と繋ぐ橋が架けられている。志賀島は周囲11キロ南北に長い楕円形の島である。

・江戸時代の天明4（1784）年に現在、国宝に指定され福岡市博物館に保管・展示されている紀元一世紀に日本と中国が交流していたことを物証する金印（漢委奴国王印）きんいん かんわのなのこくおうが発見された地として有名である。

【能古島】

・「能古島」（福岡市西区能古）は福岡湾口に浮かぶ南北に長いナスビ型の島。市街地に近く、釣り、海水浴、ハイキング、昆虫採取で訪れる人が多い。また、島の北側には「アイランドパーク」があり、四季を問わず花が咲き誇る自然公園として市民の憩いの場所となっている。

・「能古島」へは福岡市西部の博多湾に面する愛宕浜にある能古渡船場から市営渡船で約10分で能古島の渡船場へ着く。

・島内には西鉄バスが北端にある「アイランドパーク」まで運行しており、終点で下車（約13分）し、海岸方面への坂道を少し下れば灯台が立っている。この一帯が、この万葉歌から古代に防人が配置されていたと推定されている「也良岬」である。

・ここ能古島の也良岬からは北の志賀島、北西に玄海島を配した博多湾口をひと目で見通す景観で玄界灘との船の出入も監視できることから古代に防人が配置されたことは、うなずける場所であろう。

(写生地) 能古島の北端也良岬からは瀬戸を隔てて正面約3kmのところに対峙する志賀の島の一部と遠くに広がる玄界灘を描く。(池田杏花)



(参考文献) 水島義治著「万葉集防人歌全注釈」 林田正男著「万葉の歌・九州」、

「角川日本地名大辞典」、他

博多湾付近位置図

